

深川

外園重子

花こぶし木地師翁の長眉毛
入学写真みんないい顔して写る
陽炎や遠き記憶の縄電車
芝生踏む白き足裏夏近し
天平の塔や薨や風薫る
浅草や三社祭の中に居る
派手かしら我が身に問うて衣更ふ
持重る益子の瓶や梅を漬く
海の日や写真の兄は学徒兵
隅田川橋を連ねて大花火
学童の残暑負ひ行くランドセル
登高や空に帽子を投げてみる

身の丈の伸びたる心地高き踏む
踊りの輪月の城下を練つていく
深川に芭蕉庵あり小春風
聞き流す事も一策おでん鍋
時雨るるや言はずに帰る恨み言
深川や時雨かけたる清洲橋
歳晩や万華鏡めく交差点
ベレー帽深く被りて冬銀河
かがり火と星散りばめて能登の凍て
冬うらら園児泣いたり走つたり
汐鳴りや浜にも春の来つつあり
山国の目覚めは遅し春の雪
家猫の忍び歩きや春の月
帯ポンと叩き傘壽の春まつり